

# 賑わう 新馬場。 何が行われて いるの？

藩祖鍋島直茂公  
没後250年を記念した祭礼です。

慶

應<sup>なおしげ</sup>3年(1867)、直茂公の没後250年  
を記念し、日峯社<sup>にっぽうしゃ</sup>の参道<sup>しんば</sup>にあたる新馬場<sup>ばば</sup>  
で祭礼が催されました。右の図は、その  
様子を表した版画です。図の上端には本宮、下端  
には下宮が描かれ、間をつなぐ参道の両脇には「牛  
嶋<sup>うし</sup>町<sup>じま</sup>」「長瀬<sup>ながせ</sup>町<sup>やえ</sup>」「八戸<sup>やえ</sup>町<sup>さじき</sup>」など各町が競って棧敷<sup>さじき</sup>  
を  
設けており、大きな獅子や、米俵をのせた船を曳く  
行列が練り歩くなど大変賑わっています。

当時の藩主鍋島直正公も近くの欄干御茶屋<sup>らんかんおちや</sup>に  
赴き、お子様方と一緒に祭礼の様子を観覧しま  
した。

普段は質素儉約を励行し、またお祭りが少ない  
とされる佐賀城下ですが、大きな祭礼の折には役  
人から「自由に祭礼飾りをしてよい」とのお達しが  
出て町人たちが大騒ぎになるなど、神社を核に松  
原の地で藩主から町人まで一体となって奉祝ム  
ードを盛り上げました。



藩祖直茂公二百五十年祭礼之図  
慶応3年(1867)  
佐賀県立図書館所蔵

